

煙の恐ろしさから学んだ事

玉野市立築港小学校五年 上田遼平

ぼくの住んでいる地域では、多くの農家が米と麦を同じ耕地で栽培する二毛作を行っています。五月下旬から六月上旬位に麦が収穫され、田植えに備えて野焼きが行われるのです。毎年、野焼きを見かけると、

「もうすぐ田植えの時期だなあ」と季節を感じていました。しかし、いつもの光景が、その日は違っていました。野焼きと

いうと、煙が遠くから見え、火が田を覆い、段々と田が黒くなっている様子に分かります。でも、その日は辺りが暗くなり、田には火が見えなかったのです。母が、習い事が終わったぼくたち兄妹を車で迎えに来てくれていました。車でしばらく走ると、車の中が煙でいっぱいになりました。母が、

「車が故障したのかもしれない。」とパニックになりました。大急ぎでガソリンスタンドに駆け込んで、車のエンジンルーム



を調べてもらいました。するとがソリンスターの店員さんから、

「野焼きをしている所を通りましたか」と聞かれました。思い当たる事があり、家族全員で店員さんに何度も謝った後で、涙が出るほど笑いました。

「車の火災じゃなくて良かった」とホッとして体中の力が抜けました。

この経験から、ぼくは煙の怖さを知りました。車の中が煙でいっぱいになった時は、本

当に恐ろしくて仕方ありませんでした。このことをきっかけにして、ぼくの家では、本当に火事になった時に、どこから逃げたら良いのか、避難経路について確認をしました。また、今回の経験を元に、煙が身の回りにあるだけでも慌ててしまい、普段の思考ができなくなる恐ろしさも学びました。もし火事になつたら、自分の命を守るために、「慌てずに冷静な判断を心掛けよう！」これが家族の合言葉です。